



落合第一地区協議会だより

みどりの風

第16号

編集・発行 落合第一地区協議会：03（3951）9196（落合第一特別出張所内）
平成26年3月31日 発行

地域ねこ対策を考える…

3月8日(土) 地域センターまつりの1階地区協ブースにおいて、地区協議会の紹介・クロッチマップの配布・地域ねこ(野良猫)に対するアンケート調査を行いました。

地域ねこには、糞・尿による被害に対する相談を始めとした様々な相談が寄せられ、用意した100個の猫避け唐辛子が足りなくなる程の反響の多さに、委員一同大変驚かされました。当日、123名の方にご協力頂きました、アンケートの結果は下記の通りです。

また、3月15日(土)には、新宿区保健所の石井章夫氏を講師に迎え、1部「地域ねこ対策ってどんなこと？」・2部「野良ねこ問題の相談会」を実施しました。

総 数		123	割合			割合		
1	あなた(ご家族)は猫を飼っていますか？	はい	20	16%	4 被害を受けたことがある方におきします。 80 —			
		いいえ	103	84%				
2 猫を飼っている方におきします。		20	—					
A	その猫は家から出ることはありますか？	家から出ることはない	12	60%	A どのような被害を受けましたか？(複数回答)	糞・尿	67	84%
		家から出ることもある	8	40%		鳴き声	28	35%
B	その猫は去勢または避妊をしていますか？	している	18	90%	B その被害を受けたとき、何か対応しましたか？	無回答	14	18%
		していない	2	10%		していない	17	21%
3	野良猫の被害を受けたことがありますか？	ある	80	65%	C 唐辛子が猫を寄せ付けない効果があることを知っていましたか？	対応した	44	55%
		ない	42	34%		無回答	19	24%
		無回答	1	1%		はい	21	26%
					いいえ	55	69%	
					無回答	4	5%	

手術の目

地域ねこ対策とは、地域住民・ボランティア・行政が一体となり取り組む協働事業です。

- ①適正にえさをあたえ、食べこぼしやえさ場の清掃を行う。
- ②トイレ等を設置し、糞尿の始末をする。
- ③ 去勢・不妊手術を行う。(区の助成制度を活用する)

猫も命あるもの、その地域にお住まいの皆さんの合意のもとに、地域で「飼い主のいない猫」を適正管理しながら共生していこうという考え方です。



「高齢化社会における新宿区の在宅医療について」

2月27日（木）午後7時より落合第一地域センターにおいて、長年、落合で開院されていらっしゃる新宿区医師会会長・木島富士雄先生に「高齢化社会における新宿区の在宅医療について」の講演をお願いしました。

在宅医療とは広義には病院外で行う医療全般の事を言うのだそうです。患者一人一人が必要とする医療は違います。それに一つ一つ答えるよう、医師・看護師・歯科医師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・栄養士などが訪問可能で「オーダーメイド医療」が在宅医療と考えて良いそうです。

新宿区内には大病院が多数ありますが、私たち区民が優先的に入院できる訳ではありません。

2025年（11年後）には超高齢化時代がやって来ます。現に、要支援・要介護に認定されている人は、80～85才で28.4%、85才以上ではなんと57.7%だそうです。新宿区医師会在宅医会会則第1条には「病院と診療所の連携、診療所間の連携、医科と歯科の連携、多様な医療介護職との連携等の連携における核としての働きも期待される。そこで、本医師会内に、在宅医療のより一層の理解とその知識の普及、連携の強化を目的として、新宿区医師会在宅医会を設立し、地域医療の発展に資する事とする。」とあります。

家族が、あるいは自分が病気や認知症になってから考える！ではなく、たとえば誕生日を機に新宿区にはどのような制度やサービスがあるか調べてみることは将来の不安解消の一助になるかもしれません。子育て世代に負担をかけないためにも、一考する価値はあるようです。

これらを相談したいときには、まず在宅医療相談窓口（区立訪問看護ステーションや高齢者総合相談センター、地域包括支援センター）が良いそうです。かかりつけ医をホームページで探すこともできるそうです。

人生最期まで地元で元気に生きたいものです。

この講演を参考に必要な援助は受け、家族だけに負担を負わせることなく終焉のときを迎えられる社会を区民皆が目指すべきと感じました。



▲木島先生のお話で私の老後も一安心！



鹿嶋風力発電所と大洗の視察



今年度の視察は、2011.3.11の東日本大震災後、福島原発のこと、復興のことなど、折りあるごとに話題にのった案件でした。3年経った今だからこそ行って見ようか！となり、3月19日（水）委員と一般公募の人たち総勢34名で行って来ました。

まずは、茨城県鹿嶋市栗生（アオウ）のサミットウインドパワー株式会社・鹿嶋発電所見学。

原子力発電に変わる新エネルギーの一つが風力発電です。関東最大の風力発電所。1基はタワー高：78m、ブレード（羽）長：40mの規模。海岸線に沿って10基が建っている。発電量は年間約4.25万MWhで4人家族の約12,000世帯相当分。二酸化炭素は約年間1.8万CO₂ t 減になり、原油換算で年間約1万kℓ相当の削減効果があるそうです。発電所内に工場を誘致し、北海浜工業団地として機能しているそうです。

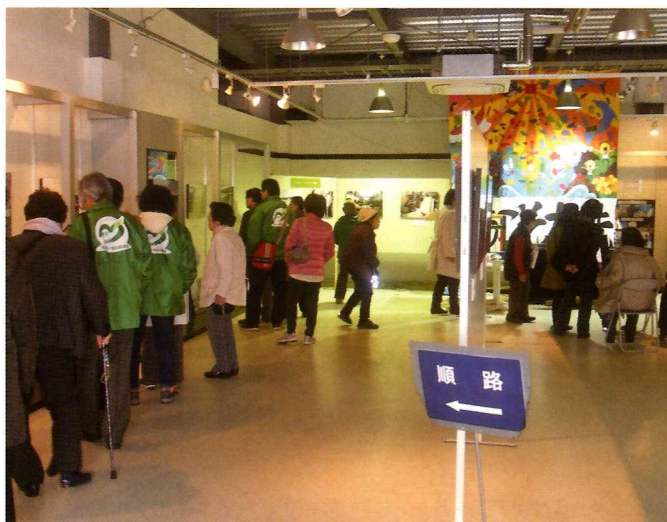


ボーイング747の機体がスッポリ入る程の羽の直径▶

次の視察地、大洗港を目指しバスは北上。沿道には黒瓦の旧家と畑が交互に並ぶのどかな田園風景。大洗の町並みも海岸も3.11の時、津波に襲われたようにはもはや見られませんでした。地震発生時から約2時間後の16時52分には、4.2mの津波（第三波）が押し寄せ、大洗リゾートアウトレットの一階は床から1.35mまで水が来たという。その二階に震災時の被害の様子を映像や写真で展示してあるコーナーへと観光ボランティアの方々に案内されました。展示されていた写真を見て当時の被害の大きさに驚き、私たちもまたあの日の恐怖がよみがえってきました。大洗町の約9%となる200haが浸水したそうです。あまりマスコミで報道されなかった所以我们は知りませんでした、3392名の町民が17箇所の避難所に避難したそうです。海岸線の無残な姿

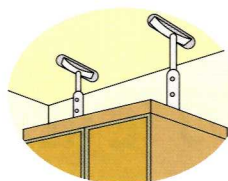
を一刻も早く、元のきれいな環境に戻したいとの思いから、震災翌日から建設業界や消防団、大勢の町民ボランティアの力を結集し、がれきや汚泥の回収・清掃活動を行い、5月の連休前には、ほぼ海岸線一帯は復旧。約1.4万tもの大量のがれき等の処理も夏の海水浴シーズン前には終了したとのことでした。

“必ず来る”と言われている大地震に対して、私たち一人ひとりがどうすべきかを考えさせられた意義のある視察でした。



▲3.11当日の迫力に足を止めて！

地震対策は…?



昨年のセンターまつりに参加し、「東日本大震災の時、あなたはどのような被害を受けましたか？そして、どのような行動を取りましたか？」などのアンケートを取り、その集計結果（230枚）を今年報告しました。

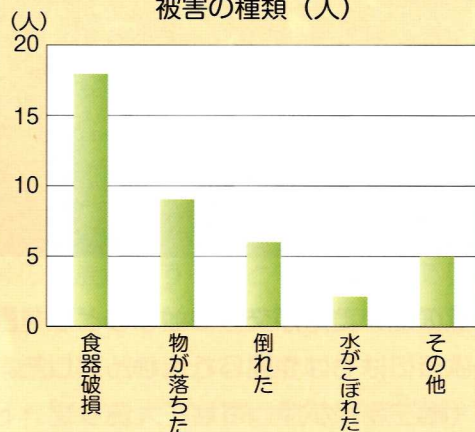
震災以前に地震対策を取っていた人の割合は38%でした。その内容は、水・食料の備蓄が70%、家具の固定が25%。

2011. 3.11の地震は新宿区では震度5弱でした。

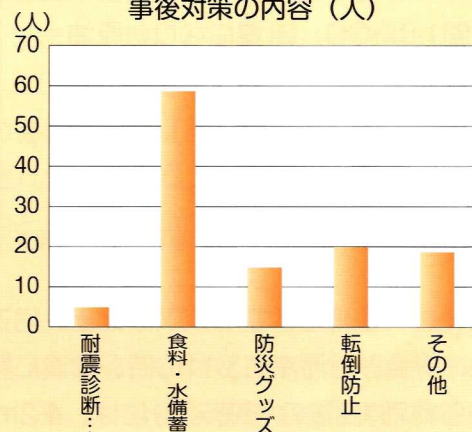
直下型地震では新宿区の8割が震度6強と推定されています。このアンケートの結果でも、家具の転倒防止や建物の耐震化対策は、まだまだ行き届いていません。

皆さんの地震対策に、この結果を参考にいただければ幸いです。

被害の種類（人）



事後対策の内容（人）



編集後記

今年は午年、馬について考えてみた。馬というと競馬しか頭にない御仁も多いと思うが、馬は人間の歴史のなかで、最も密接に関わってきた動物である。或る時は農耕馬として、或る時は乗馬・荷馬車として、また戦場では勇猛な軍馬として活躍してきた。もし馬がいなかったら、世界の歴史も変わったものになっていただろう。

ことわざ辞典に出てくる十二支の動物のなかで馬が一番多い。私達の生活の中にも多くの「馬」が登場する。

馬子にも衣装・馬が合う・生き馬の目を抜く・馬耳東風・馬の耳に念仏・
じゃじゃ馬・馬齢を重ねる・馬には乗って見よ人には添うて見よ・
馬脚を現す・人間万事塞翁が馬……

また漢字一字にも、馬のしぐさや行動が込められている。

かける（駈）	なれる（馴）	のせる（駄）	すぐれる（駿）
はせる（馳）	さわぐ（騒）	しるし（験）	おどろく（驚）
のる（騎）	とどまる（駐）	うまや（駅）	おごる（驕）……

このように人間社会に貢献してきた馬であるが、今の暮らしからは遠い存在になった。しかし時代劇とりわけ西部劇には欠かせない脇役である。また馬肉はさくら肉として、馬毛は筆に、馬油は薬や化粧品に利用されている。（T.U.）